

「理科における言語活動」

※文献を参考にして、嶋個人の考えをまとめたものであり、県や指導主事としての考えではない。

○理科の学習…問題解決の活動を重視

「体験」（観察、実験）と「言語」（思考、表現）を織り交ぜる

「具体」の体験を重視しながら、「抽象」操作である言語活動

- ・展開 (1) 自然事象への働きかけ
- (2) 問題の把握・設定
- (3) 予想・仮説の設定
- (4) 検証計画の立案
- (5) 観察・実験の実施
- (6) 結果の処理
- (7) 考察

○理科教育で重視すべき言語活動

- ・結果の記録、考察や結論の記述
- ・レポート作成
- ・口頭発表
- ・話し合い活動（班での討議）
- ・プレゼンテーション
- ・ディベート
- ・ポスターセッション

- ・文字言語としての活動
結果や考察をきちんとかける
その上で結果と考察をかき分
けること
- ・音声言語としての活動
今後の課題



- ①実施する条件の整理（ルール、マナー）
- ②タイムマネジメント
- ③状況把握（活発か？ 質は？）
- ④評価（有効か？ 役割評価ではない）
- ⑤結果の全体への普及
- ⑥生じるための工夫（課題、発問）
- ⑦環境づくり、小道具

○配慮したいこと

- ・手段であり、目的は「科学的な思考力などの理科的な能力を高めること」
- ・形式的になってはいけない
自分の言葉で自分の考えを確実に整理して表現できる
- ・科学的な言語を用いる
- ・学校として、子供の発達状況を考えて言語活動の基盤となるコミュニケーション能力の育成について、指導のあり方を共有化する